

会報 安曇野教育

第80号 発行所 安曇野市教育会 発行日 令和6年12月9日
安曇野の子どもを語る会 発行人 題字
編集 会報委員会・安曇野の子どもを語る会担当常任委員・幹事

安曇野の子どもを語る会

学校

一 討議のテーマ

『大人への憧れをもって、安曇野を「こころのふるさと」と感じ、たくましく生き抜く
「安曇野の子ども」を育てるには ～産学官一体となったキャリア教育の推進～』

二 討議の柱

- (1) キャリフェスの成果をもとに、大人への憧れをもつためにどのようなことに取り組みばよいか。
- (2) 安曇野の子どもが安曇野を心のふるさとと感じ、たくましい自分になっていくために何ができるか。

三 基調提案

(1) キャリアフェスティバルの目的と内容

10月17日に、「安曇野市中学校キャリアフェスティバル」が開催された。市内全ての中学校1年生が穂高総合体育館に集まり、市内の企業の50社程度がブースを出した。生徒は、2～3の企業を選択して訪問し「働く意味」「苦労していることは何か」「その仕事をして嬉しかったことは」などを質問し、企業側には仕事内容を説明しながら、それらの質問に答えてもらった。主催した安曇野市教育委員会の目指す生徒の姿は、以下の通りである。

- ① 働く意味を地域の企業の方から聞いて改めて考えていける生徒
- ② 地域の人を含めた大人の働く姿や考えにふれたり、大人が地域に関わっているよさを感じたりして、将来に繋がる夢をもてる生徒

(2) キャリア教育で求めたい子どもの姿

2年前、中でキャリフェス(略称)を行った時の生徒の感想に、以下のようなものがあった。

- ① 「その人のやっている仕事の裏には、とても素敵な思いが隠されているのだなと思った。大人になるのが楽しみになった。」この生徒は、どちらかというところ、収入のためにいやでも働くものだととらえていたが、キャリフェスを通じて、働く意味の裏にある、働く人々の願い、思いや取り組みに気づき、自分の親も含めた大人への憧れを抱いたと思われる。
- ② 「働く意味は、という町に関わりをもち、町のことをより深く知るため、その中で自分を育てるためだと思った。」この生徒は、地域で働く人と関わりをもつことが、地域を深く知り、自分の成長につながるととらえていったと思われる。

(3) キャリア教育を始め、今求められるもの

私たちは、現在、これからを生きる子どもたちが、急激に変化する社会の中で、希望をもって、自立的に自分の未来を切りひらいて生きてほしいと願っている。そのために、変化に対応していく力と態度を育てることが大切であることも日々感じている。

キャリア教育の「キャリア」は轍を意味する。また、生きる力の英訳は、「Zest For Living」である。

「Zest」は内面から沸き立つよろこびの感情を意味する。一人目の生徒の感想にあるように、子どもたちが、他者（仲間）や社会（職業・家庭・地域）との関わりの中で轍をつくり、内面から沸き立つよろこびやあこがれをもてるような「生きる力」を身に付けること、未知なる体験や知識に対して関心や勇気を持ち、直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応すること、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見だし、学び続け自立することが大切と考える。

さらに、二人目の生徒のように、子どもたちが安曇野の地域を深く知り、地域との関わりの中で安曇野の地域に育てられるよさを感じられるようにしたいと考える。子どもが将来どこに暮らし、自分の轍をつくっていくかは、子どもの選択である。ただ、子どもたちが、「安曇野のこの人と関わって取り組んだことが忘れられない」「安曇野が心のふるさと」「自分のいるところはいつでも安曇野につながっている」等感じられる轍をつくれるようにしたいと思う。キャリア教育に限らず、幼保小中高を問わず、それぞれの立場でこれらのことをどのように取り組んでいったらよいか、考えるきっかけとしたい。また、市内中学校キャリアフェスティバル実行委員の生徒にも討議への参加をお願いした。（生徒への質問や回答は後述）

子どもたちが、自ら地域とつながり、地域に生きる大人への憧れをもったり、安曇野が「心のふるさと」になったりして、将来自立した社会人となるための基盤をつくるために、子どもたちに関わる「学校・家庭・地域」が連携し、同じ目標に向かう協力体制を築けるよう、参観者全員でテーマについて話し合おう

安曇野市中学生キャリアフェスティバル

働く意味は？	苦勞していることは何ですか？	その仕事をして嬉しかったことは？

○安曇野市がキャリアフェスティバルを通じて願う生徒
 (1)働く意味を地域の企業の方から聞いて改めて考えていける生徒
 (2)地域の人を含めた大人の働く姿や考えにふれたり、大人が地域に関わっているよさを感じたりして、将来に繋がる夢をもてる生徒

キャリア教育で求めたい子どもの姿

その人のやっている仕事の裏には、とても素敵な思いが隠されているのだなと思った。大人になるのが楽しみになった。

働く意味は、堀金という町に関わりをもち、町のことをより深く知るため、その中で、自分を育てるためだと思った。

--	--

キャリア教育をはじめ、今求められているもの

生きる力=Zest For Living

※Zest→内面から沸き立つよろこびの感情

<p>「安曇野のこの人と関わって取り組んだことが忘れられない」 「安曇野が心のふるさと」 「自分のいるところはいつでも安曇野につながっている」</p>				

<全体会での中学生の意見>

- (1) キャリアフェスティバルをして感じたこと、心に残っていることは？
 - 仕事への関心が高まった。好きなこと、憧れで選んでいいんだと思った。選択肢が増えた。
- (2) あなたの考える働く意味は？キャリアフェスの前後で変わったことは？
 - お金のために働かなければならないと思っていただけ、リスクを背負ってでも、好きなことをしていくことでいいのだと思った。

- (3) 地域や身近で働く人について、すごいなと思ったり、憧れるなど感じたりしたことは？
 - 身近に利用していたお店があったけど、お店の人の思いにふれて、「人のために」働きたいと思えた。
- (4) 安曇野を自分の故郷と感じられるような取り組みとして、キャリアフェス以外にどんな取り組みがあったらいいと思いますか？
 - 社会見学など、現地に行って実際に触れてみる体験をしたらいいのではないかな。
 - 地域の高齢者の方々とふれあいをしていきたいと思った。

分散会の様子

【第1分散会】

はじめにキャリアフェスティバルに参加した中学生の感想(「仕事について、見えなかった側面が分かってよかった」「自分の好きなことを仕事にしているんだ」「自分のやりがい、楽しさ、職業の意味を深く学べた」)やあづみ野菓子工房 彩香の方の仕事に対する思い(「34年前店をつくったときに会った子どもが親になり、子どもを連れて店に来ることが楽しみ」「安曇野ならではの地産地消、ぶれない姿勢が地域の方にあこがれを持ってもらえる」)をお聞きました。

討議①では、「子どもたちが地域の方からリアルな言葉を聞ける機会を増やしていく」「課題研究、地域で困っていることを一緒に考えていく」等の意見が出されました。討議②では、子どもが「安曇野っていいよね」「ふるさとに根っこを張るもんだ」と気づき、腑に落ちることが大事、そのために、「もっと子どもに委ねる」「子どもにかかわる大人が愛情をもって誠実に向き合っていく」等の意見が出されました。所々中学生の生の声も聞くことができ、充実した討議になりました。

【第2分散会】

細田農産の社長より、「土地利用型の農業を行っている。高齢化で農業後継者が減っている中、休耕田を借りての稲作で安曇野を盛り上げる」「原料生産→加工(地ビールの生産含む)→飲食店への販売で食を繋げる」の企業理念を持ち、人と出会うこと、地域との繋がりを大切に考えているというお話をいただきました。参加者からは、「大人が本気の姿を見せることが大切である」「大人が積極的に地域の活動に参加していくこと」「人との関わり、繋がりをつくる学校での取り組みが大切」「地域で頑張っている大人の姿を紹介する」「外に出て初めて感じる安曇野の良さ、自然、人の関わり」等の意見が出されました。中学生からは、「大人の話をお聴くことで大人の考えがよく分かった。」「学校を代表して意見が言えた。いろいろな大人の意見が聴けて良かった。」等の発言がありました。企業の方、中学生、PTA、学校関係者それぞれの考えを知ることができる貴重な機会となりました。

【第3分散会】

多田プレジジョンの社長からは、「仕事は『楽しい』というよりは、『やりがい』と『責任感』で取り組んでいる。」「スポーツでも同じだが『土台づくり』が大事。」というお話を伺いました。土台として挙げたのは、あいさつ、時間を守る、ルール、髪型などの身だしなみ等で、それらの元としては土に触る・家の手伝いなどではないか、でも「会社はそれを教える所ではない。」ともおっしゃっていました。出席した教職員からはこの土台作りという話を受けて、『『やりがい・楽しさ』を感じるには『成功体験』が大事』、また若手の教職員から「あいさつだけはしっかりやりなさいと育てられてきて、あいさつすることで地域とのつながりができた。」という発言がありました。また、PTAの方から「土台作りは家庭で。親の声がけが大事で、無関心、いいやと思うことを見逃さない。」「家であいさつのあり方を年齢に関係なく話したい。」という声が聞かれ、それぞれの立場で土台作りを大切にしていこうというまとめになりました。

【第4分散会】

「あづみのうか浅川」の社長さんより収入面や仕事の条件で入社する人より「農業をやりたい」「安曇野が好き」という気持ちで入社する人の方が仕事は長続きするというお話を伺いました。キャリア教育では、小学校の社会科・生活科・総合的な学習の時間から中学校のキャリアフェスティバル・職場体験・進路学習へ、そしてその後の高校へと繋がっていると話が出て、小中高の連携の大切さが話題となりました。また、「安曇野を心のふるさと」と感じられるように、良質な体験・経験活動や世代を超えた人とのかかわりなど、ふるさとをよく知る学習を仕組み、仕事や地域の良さに気づききっかけになる活動が大切である等、活発な討議が交わされました。

【第5分散会】

えべやの さんが話された「地元を知る」「守られてきたものを若い人へ」「生涯にわたって生きがいをもって楽しく」という言葉から、ふるさとを大切にされていることが伝わってきました。また、参加者からはふるさとに対して誇りをもつには、「知る」ことが大事であると意見が出されました。私たちの身近にはどんな人がいるのか、どんな仕事があるのか、どんなお店があるのか。それを知るためには、参加した中学生の「1年生から職業体験をしたい」という願い

が大事になると感じています。さらに、後半では「交流」がキーワードとなって意見交換がなされました。人が集まれる場所づくり、そこでどんなことができるかについて考えていくうちに、参加者それぞれの立場から、様々な意見が出されました。「お年寄りと一緒にゲーム開発なんてどう?」「You tuber になって動画をつくるのは?」「中学生の柔らかい発想で地域おこしは?」思うままに発言していたのですが、ふるさとを守るために夢を語り合う素敵な時間になっていました。

参加者の感想より

<事業所>とても刺激になり、事業を見つめ直す良い機会になりました。中学生のお話から将来に向かって進む力を感じました。また交流できたらうれしいです。

<中学生>分散会であいさつなどの土台作りは、社会に出てとても大切だと教わりました。ためになることがたくさんあって、学んだことをこれからの生活にいかしていきたいです。キャリアフェスは、自分の働く意味や働く楽しさを学ぶことができ、とても勉強になりました。来年もぜひキャリアフェスをやってほしいと思っています。

<PTA>先生方や中学生の意見を聞けてとても勉強になりました。何ができるか考える良い機会になりました。

<高校の教員>高校からも参加させていただきありがとうございました。法人の方も深い話をさせていただき、とても感動しました。安曇野という地が地域でつながるあたたかい地であることを肌で感じました。

<小・中学校の教員>生徒の参加があったこと、中学生の意見が聞けたことがとても良かったです。中学生が立派に自分の考えを述べていて感動しました。中学生の意見を直接聞けて良かったです。中学生をはじめ様々な立場の方のお話を伺うことができ、大変学びの多い機会になりました。企業の方が入ってくれたことがとても良い勉強になりました。あらためて安曇野の良いところの発見もあり、住んでいて良かったと思いました。安曇野の子どもたちのためにキャリアフェスティバルの内容を知れて良かったです。小学校にも周知していきたいです。子どもたちのためにも、大人のためにも、地域のためにも「人と出会う」「人と繋がる」を大切にしていかななくてはいけないと思いました。

親子陶芸教室

学校

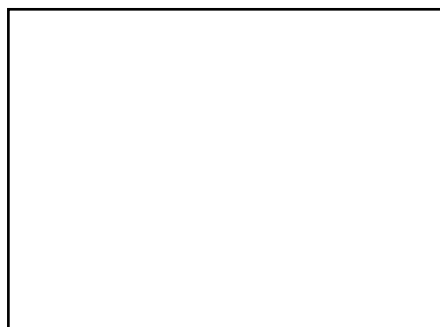
10月19日に、穂高陶芸会館にて「親子陶芸教室」が開催されました。今年度も多くのご家庭から申し込みをいただき、当日は、1年生から6年生まで、18家庭の親子の皆さんに参加していただきました。

まず、開講式を行いました。安曇野市教育会より挨拶があり、陶芸会館の担当者より講師の紹介をしていただきました。

開講式の後は、2会場に分かれて、制作に入りました。今年度も4名の講師の方々に教えていただきました。最初は粘土の扱いに戸惑っていたようですが、講師の先生に粘土のこね方や形の作り方など、丁寧に教えていただきながら制作を行いました。形ができたら、模様をつけたり、絵をかいたりしました。制作時間中は、講師の方の作業手本をみて歓声をあげたり、同じグループの家庭同士作品を見合っって声をかけあったりと、とても楽しい雰囲気でした。

茶碗の形がゆがんでしまう、カップの取っ手がくっつかない等、難しい部分は講師の方と一緒に制作し、子ども以上に親が夢中になって作業している姿が印象的でした。制作が終わった親子から流れ解散となりました。最後に全ての作品が並べられましたが、どれを見ても個性豊かで素晴らしい作品ばかりでした。

今回制作した作品は、陶芸会館の方が乾燥させ、焼いてくださいます。完成した作品は陶芸会館より各ご家庭に連絡をしていただくようになっています。仕上がりの連絡が来るのを楽しみに待っていることと思います。



実技講習会報告

学校

7月26日（哲学研修講座は23日、国語研修講座は24日）、18講座で延428名が参加。特別委員の先生方の趣向を凝らした内容のもと、自分が興味のある講座を選択し、学校、学年や教科の枠を超えた職員同士が、実りある時間を過ごしました。

講座内容	講座内容
書を学ぼう・書こう・楽しもう！ ～大澤逸山先生に学ぶ書写指導 2024 夏～	『こうすれば心が育つ』！心を育てるために今どのような道徳教育（心の教育）が望ましいのか追究しましょう！
水と生きる 100年先の未来を見据えた天然水づくり	哲学研修講座 ～今を生きる教師として、木村素衛の思想を読む～
講演「数学的に考える資質・能力の育成を図る授業づくり ～学びを社会に生かす教育を目指して～」 なぜ？本当？どうなる？から始まる算数・数学の自由研究	ポジティブな行動支援 不登校激減方法の紹介
今後の授業に活かそう！教材の工夫！	井口喜源治記念館（穂高）～井口喜源治の信仰と教育～
『信州ユニバーサルデザイン』の視点を生かした音楽学習の授業展開を考えよう！	安曇野を英語でガイドしよう！
北欧装飾ヒンメリ作り	Chromebook・ロイロノートを授業に活かそう
明日からの授業に活かそう！実技伝達講習	リンパケア講座
信州サーモンを教材化？長野県の水産業から学ぶ	自立活動に使える教材づくり
夏野菜で夏バテ予防！～季節の食材で元気になろう～	みそ・しょうゆ もの知り博士から学ぼう

教育会研修日報告

11月6日、同好会員を中心に、各会場で研修会を実施しました。限られた時間でしたが、日々の実践の交流など、明日からの取り組みに役立つ機会になりました。

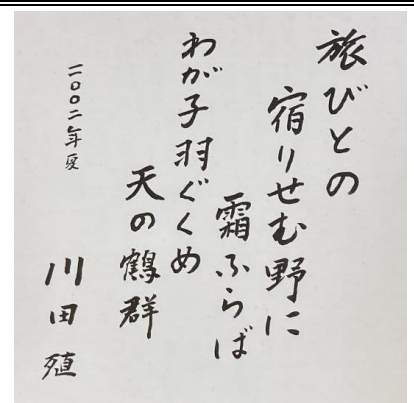
研修内容	研修内容
日常の実践について交流しよう 【国語】	夏の哲学研修講座のふりかえり 【哲学】
信州社研安曇野支部レポート発表と審議 【社会】	情報交換会とポジティブ道徳カードの実践例の紹介 【教育相談】
レポート発表 【数学】	日本彫刻の傑作 礫山の作品を通して彫刻の魅力を知ろう 【人物誌】
おすすめ教材の紹介 【理科】	日々の実践の情報共有をしましょう 【英語】
富澤裕先生講演会「音楽が教えてくれるもの」 【音楽】	Chromebook の活用事例紹介 【情報教育】
長野県児童生徒美術展地区審査 【美術】	第41回長野県学校歯科保健大会 【学校保健】
授業レポートから学ぶ体育学習 【保体】	モルックを楽しもう！ 【特別支援】
県ものづくりフェア出展作品選考会 【技家】	仲間の実践には、ヒントがいっぱい！ 【生活総合】
『こうすれば心が育つ』道徳教育 【道徳】	*【 】内は同好会名

【郷土の文化財 56】

昭和50年から平成28年まで42年間、哲学研修会の講師として、南安曇・安曇野市の教職員のためにご指導いただいた川田殖先生の書である。
「旅びとの 宿りせむ野に 霜ふらば わが子 羽ぐくめ 天の鶴群(たづむら)」は万葉集の一句である。意味は「旅をする人が野宿する野に霜がおりたら、私の息子をその羽で守ってあげて、空を飛ぶ鶴たちよ」天平5年(西暦733年)に遣唐使船が難波を出発するときに、遣唐使のお母さんが息子の無事を祈って詠んだ歌である。自分のことを大切に思い、幸多からん事を全身全霊で祈る人がいると確信できるならば、どれほどの困難にも立ち向かうことが出来るであろう。人にとってもっとも美しい姿は祈る姿であることを思い、川田先生が書にしたためたのではないかな。

郷土文化財センター運営委員

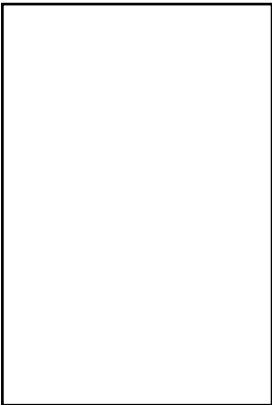
(学校)



～安曇野往来～

「多様な背景をもつ生徒との日々」

学校



旭町中学校は松本市の北東部、大学や高校などが集まる文教地区にあり、昭和23年旧陸軍150連隊の既存施設を活用し開校。緑豊かな広大な敷地を有し、常念岳の雄姿を望む学び舎で教育活動が展開されています。全校生徒300人弱、本校とともに、信州大学医学部附属病院内の院内学級、日本で唯一の少年刑務所（松本少年刑務所）内にある桐分校を運営、様々な状況の生徒たちが学び、本校との交流も盛んに行われています。

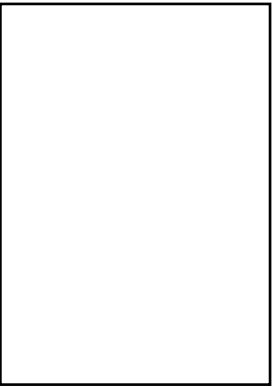
昨年度の桐分校生と3年生との交流での印象的なシーン、冷え込んだ体育館での「道」の合唱。互いに発する歌声がマスク越しに白い煙として立ち上り、歌のサビに近づくにつれて白い息の勢いは一層強くなりました。

歌い終わったあとの涙と拍手、感動が広がりました。

旭町中での勤務では、本校生徒はもちろん院内学級在籍生徒や桐分校生のひたむきに学ぶ姿を目の当たりにし、身が引き締まる毎日です。これからも全ての生徒が輝ける学校運営に努めていきたいと思えます。

「池田の地に生まれ」

学校



有明山の麓、西側に八幡神社、北側には浅原六朗記念館、まわりをぐるっと散策すると、池田町の文化や歴史にふれることができる場所に、

学校があります。学校の歴史は古く、天保8年（1788年）、杉山巢雲先生によって創設された庶民の子弟のための教育機関、「池田学問所」までさかのぼります。現在 町では、教育大綱「子どもがまんなか、未来を拓く、人づくり」のもと「保小中15年プラン」を推進し、保小中合同の研修会や相互参観が行なわれ、子育てや教育に力を入れている町だと実感しています。

今年度 学校では、春と秋の2回の地域公開参観日を実施し、多くのご家族や地域の方々に、子どもたちの学びの姿を見ていただきました。地域の皆さまからは、「子どもたちが明るく伸び伸びと学んでいる様子を見ることで良かったです。」「子どもたちの明るい挨拶が聞けてうれしくなりました。」等の感想をいただき、地域に支えられ、見守られていることを実感することができました。また、今年度行なった、特別支援教育の教育課程研究協議会では、通常学級の全クラス公開を行い、本校のインクルーシブ教育の実現に向けた、通常学級における特別支援教育の取り組みを、多くの先生方に見ていただくことができました。

毎朝、昇降口を明けると、「おはようございます！」と元気な挨拶で学校に入ってくる子どもたち。「子どもがまんなか」の教育理念を胸に止め、池田の子どもたちの育ちを支えるため、私自身、日々精進していきたいと思えます。

先日訪問した学校で、小学校4年生で扱う「ひとつの花」の授業アイデアについて先生方と話し合っていた時のことです。「なぜ本文では『ひとつだけ』が繰り返し出てくるのに、題名が『ひとつの花』なのだろう」という何気ない問いから、先生方がそれぞれの教材観を出し合い、「なるほど!」「へえ〜!」が飛び交う、活発な意見交換の場となりました。最後に、ある先生がおっしゃったのは、「『ひとつの花』ってこんなにおもしろいと思いませんでした!今すぐ授業してみたいです!」そんなワクワクいっぱいという言葉でした。そして、そんな先生方の姿から、子どもたちがワクワクしながら授業をしている姿が見えるようでした。

今、私が教壇に立つことはかないませんが、先生方を通して子どもたちがワクワクしながら活動する姿を共有したり、先生方と共にワクワクしたりできるのが、この仕事の醍醐味であると感じています。そうしたワクワクをもっと増やせるよう、さらに精進していきたいと思います。

「子どもがまんなか」…まだまだ模索中!

学校

私は本校に転任して、先生方・子ども達の姿にカルチャーショックを受けたのを覚えています。本校は町の教育理念であるこの言葉を大切に、色々な場面で日々取り組んでいます。その中心となっているのが6年生。今年は6年担任ということもあり、多くの場面で「子どもがまんなかとは?」と考え模索しながら進んできました。特に学校の2大行事音楽会・運動会は6年生が中心で運営をします。願いを持って、どんな行事にしたいのかを子どもたちが話し合うところから始まり、計画準備をします。子どもの思いによりそいながら一緒に作り上げる行事は本当に最高です。もちろん途中でつまづく時もあります。しかし、じっくり

子どもたちの思いを感じ、一緒になって悩み考え、子どもたちが乗り越えるのを見守り、そと後押ししていく。教師の仕事としてやりがいを感じます。そして何より、終わった時の子どもたちの最高の笑顔は何ものにも代えがたいご褒美です。しかしまだまだ模索中。これからも日々考え学んでいきたいです。

東西南北 『名言から学ぶ ～何のために勉強をするの?～』

学校

以前子どもから「何のために勉強をするの?」と問われて、答えに困り、自分自身じっくりいくような答えが出せないままいました。あるとき映画「男はつらいよ」を見てみると、映画の中で寅さんの甥っ子満男がまさにこの質問を、寅さんにぶつけていました。寅さんの答えはこうでした、「人間長い間生きてりゃいろいろなことにぶつかるだろ、な。そんな時、俺みていなやつは、サイコロの出た目で決めたりとか、その時の気分で決めるよりしょうがない。ところが勉強したやつは、自分の頭できちんと筋道をたてて、はて、こういう時はどうしたらいいかなと考えることができるんだ」(第30作「寅次郎サラダ記念日」より)。この言葉を聞いて、まさにこういうことだよな、と思いました。今度、同じ質問をされたら、「自分で考え判断して、これからの世の中を生きていくために、必要だからだよ」と答えることができる気がしました。